

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

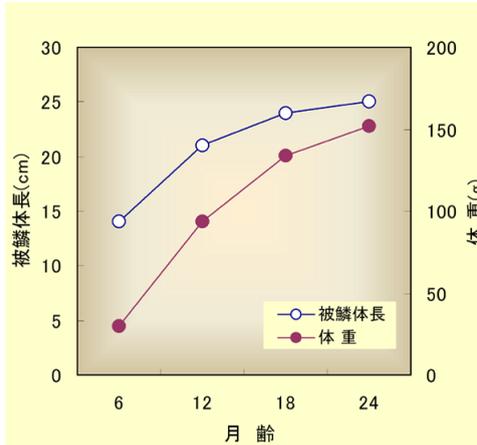
系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 2歳前後
 成熟開始年齢: 9カ月(一部)、12カ月(100%)
 産卵期・産卵場: 10～7月で、盛期は2～7月と11～12月の年が多い、沿岸域
 索餌期・索餌場: 周年、沿岸域
 食性: 動物プランクトン等
 捕食者: 中大型浮魚等

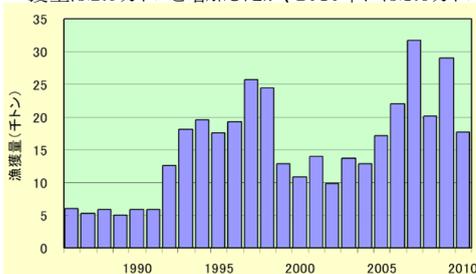


漁業の特徴

主に旋網、定置網により漁獲される。和歌山県では棒受網でも、また、高知県では多釣りでも漁獲する。シラス(稚魚)期は船曳網で漁獲される。外国船による漁獲はない。

漁獲の動向

漁獲量は1991年まで5千～6千トンであったが、1992年に急増して1993～1998年では1.8万～2.6万トンとなった。1999～2005年では1万トン台程度に減少したが、2006年は2.2万トン、2007年は3.2万トンと増加した。2008年は統計数値としては2.8万トンであったが、主要港水揚量と系群全体の漁獲量の関係から2.0万トンと推定した。2009年漁獲量は2.9万トンと増加したが、2010年には1.8万トンに減少した。

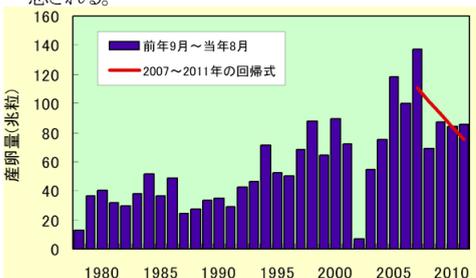


資源評価法

産卵量および漁獲量の推移により資源の水準と動向を判断した。産卵量として、各県水産試験研究機関と水産研究所による改良型ノルバックネットの鉛直曳採集結果に基づき、中央水産研究所がとりまとめた月毎の産卵量データを用いた。ウルメイワシの産卵期は10月頃始まり翌年の7月頃まで続くことから、産卵量として前年9月～当年8月を集計した。2011年漁獲量は、年前半と後半の漁獲量の間の正の相関関係を用いて予想した。

資源状態

2004～2007年産卵期まで産卵量の増加傾向が続き、2007年産卵期にはピークの138兆粒となった。2008年産卵期には69兆粒に減少したが、2009年産卵期にはやや増加して87兆粒に、2010年産卵期には84兆粒となった。2011年産卵期では86兆粒となった。最近5年間産卵量は減少傾向を示している。2007年と2009年の漁獲量は3万トン前後の高い水準にあったが、2008年と2010年にはそれぞれ前年より大きく減少して2万トン以下となった。2011年1～6月の漁獲状況から、2011年漁獲量は2010年より大きく増加することが予想される。



管理方策

水準・動向が中位・減少にある本資源の管理目標としては、現状の漁獲量を減少させ、資源の維持を図るべきであると考へた。最近5年間の産卵量の推移の回帰式から求めた変化率は、2010年から2011年では0.89、2011年から2012年では0.88となり、2009年から2011年では両者の積から0.79となった。ABCtargetは、ABClimit×安全率0.8(標準値)とした。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	17千トン	0.79Cave3-yr	-	-
ABCtarget	14千トン	0.8・0.79Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 資源量の水準・動向は産卵量と漁獲量で判断した
- 2011年産卵期の産卵量は、1978年産卵期以降では中位水準にある
- 2007～2011年産卵期の産卵量は減少傾向にある
- 2006年以降の漁獲量は高い水準にあったが、2010年には大きく減少した。2011年では2010年より大きく増加することが予想される

管理方策のまとめ

- 管理目標としては、現状の漁獲量を減少させ、資源の維持を図ることとした
- 近年(2008～2010年)の平均的な漁獲量に係数0.79(2010年から2012年への産卵量の推定減少率、暫定値)をかけた値を生物学的許容漁獲量の上限とした

執筆者: 阪地英男・梨田一也

資源評価は毎年更新されます。